

# Economic Indicators

発表日: 2021年8月30日(月)

## 小売業販売額(2021年7月)

～ガソリン価格の上昇が名目での財消費を押し上げるも、個人消費には陰りが見える～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主任エコノミスト 小池 理人 (TEL: 03-5221-4573)

(単位: %)

		小売業販売額		各種商品	織物・衣服 身の回り品	飲食料品	自動車	機械器具	燃料	その他(含む医 薬品・化粧品)
		前月比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
20	1月	▲ 1.1	▲ 0.4	▲ 3.4	▲ 1.0	0.5	▲ 1.8	▲ 2.8	0.2	0.8
	2月	▲ 0.3	1.6	▲ 4.6	▲ 3.6	3.6	▲ 1.1	2.0	2.8	4.0
	3月	▲ 3.0	▲ 4.8	▲ 20.9	▲ 22.7	▲ 0.6	▲ 1.5	▲ 7.1	▲ 6.4	▲ 1.1
	4月	▲ 10.3	▲ 14.0	▲ 42.9	▲ 54.1	0.4	▲ 23.7	▲ 13.5	▲ 22.0	▲ 4.6
	5月	3.0	▲ 12.5	▲ 35.2	▲ 34.6	1.9	▲ 35.2	▲ 6.3	▲ 28.5	▲ 4.7
	6月	11.6	▲ 1.3	▲ 11.1	▲ 6.3	2.8	▲ 16.9	16.2	▲ 14.7	3.4
	7月	▲ 1.4	▲ 3.0	▲ 12.3	▲ 19.0	1.4	▲ 15.8	8.1	▲ 12.3	3.1
	8月	1.7	▲ 1.9	▲ 12.2	▲ 17.7	2.4	▲ 13.9	3.9	▲ 6.9	2.2
	9月	0.0	▲ 8.7	▲ 24.4	▲ 24.0	1.5	▲ 16.0	▲ 24.3	▲ 8.1	▲ 7.0
	10月	▲ 0.3	6.3	▲ 0.4	▲ 4.1	3.6	16.7	27.3	▲ 0.6	7.3
	11月	0.1	0.6	▲ 10.0	▲ 7.7	0.4	3.0	26.1	▲ 10.1	2.9
	12月	▲ 0.6	▲ 0.3	▲ 9.4	▲ 4.4	▲ 1.0	4.4	15.8	▲ 8.3	1.0
21	1月	▲ 1.7	▲ 2.4	▲ 17.3	▲ 17.8	▲ 0.1	6.0	12.5	▲ 9.6	▲ 2.7
	2月	3.1	▲ 1.6	▲ 10.1	▲ 17.3	▲ 2.0	6.0	11.1	▲ 9.7	0.7
	3月	1.2	5.2	7.3	12.9	▲ 0.6	11.0	14.9	5.8	3.7
	4月	▲ 4.6	11.9	43.7	63.1	▲ 0.3	26.8	23.7	25.2	2.1
	5月	▲ 0.3	8.3	16.4	16.4	0.0	36.4	12.5	34.9	1.4
	6月	3.1	0.1	▲ 4.0	▲ 12.0	0.9	11.9	▲ 14.7	25.9	▲ 3.8
	7月	1.1	2.4	1.0	2.9	2.5	3.1	▲ 2.6	27.7	▲ 2.3

(出所) 経済産業省「商業動態統計」

### ○7月の小売業販売額(季節調整値)は2か月連続のプラスとなるも、個人消費には陰りが見える

経済産業省から公表された21年7月の小売業販売額は前年比+2.4%の増加、前月比では+1.1%の増加となった。前年比での伸び率のうち、2.0pt%は燃料小売業によるものであり、ガソリン価格の上昇が名目での小売販売額の押し上げに寄与したようだ。

価格変動の影響を考慮した実質値(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)でみると、前月比▲0.2%の減少となった。業種別(実質値、季節調整値)では、飲食料品小売業(同+0.3%)や燃料小売業(同+0.1%)が増加する一方で、機械器具小売業(同▲5.7%)や織物・衣服・身の回り品小売業(同▲3.5%)、自動車小売業(同▲2.3%)が減少し、全体としては減少する結果となった。自動車小売業は均してみると4月以降減少が続いており、半導体不足による停滞がうかがえる。また、機械器具小売業の減少が続いていることも気がかりだ。昨年の定額給付金支給によって家電の購入が急激に伸びたことで需要が先食いされている可能性がある。

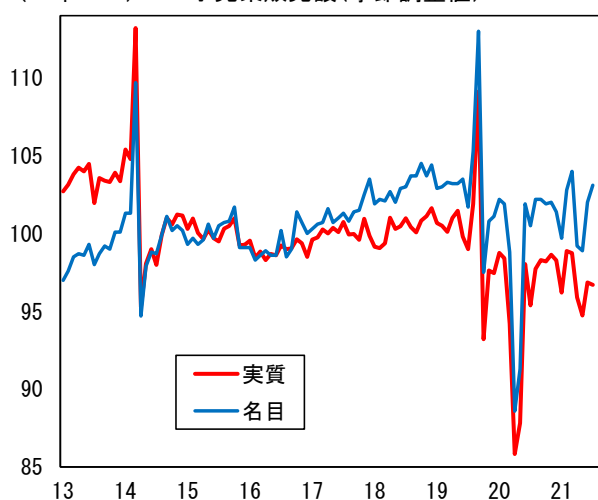
### ○感染状況や所得環境の悪化により、個人消費は減少傾向で推移することが見込まれる

個人消費の先行きについて、減少傾向での推移が見込まれる。足もとでの感染状況は大きく悪化し

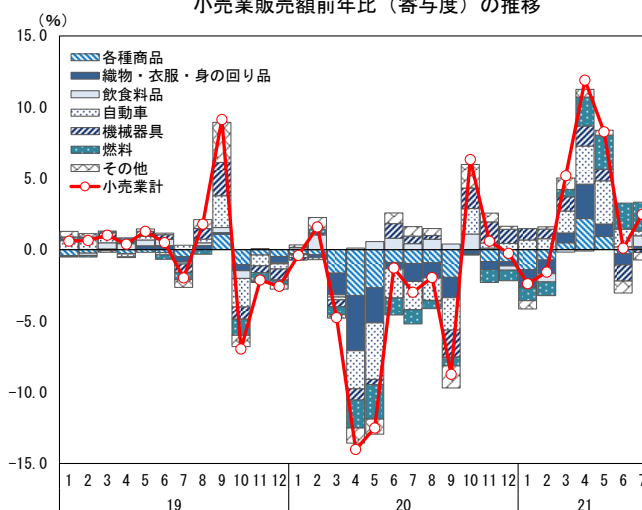
ており、21都道府県に緊急事態宣言が発令され、12県がまん延防止等重点措置の対象地域となるなど、予断を許さない状況が続いている。宣言慣れにより、過去の緊急事態宣言発令時と比較して効果は弱まってはいるものの、外出手控えや営業活動の制約によって、サービス消費を中心に個人消費が停滞することは避けられないだろう。賃上げペースの停滞も個人消費の頭を押さえることが予想される。厚生労働省が13日に公表した2021年の民間主要企業春季賃上げ要求・妥結状況によると、賃上げ率は1.86%と、8年ぶりの2%割れとなっており、賃上げペースは明確に鈍化している。

個人消費の回復にはワクチンの普及に伴う感染状況の改善が必要になるだろう。ワクチン接種は着実に進展しており、ワクチン普及による感染状況改善後には、個人消費の回復が見込まれる。デルタ株に対してはワクチンの有効性が低下するとされており、楽観はできないものの、ワクチン接種の進展とそれに伴う感染状況の改善が、今後も個人消費回復の鍵となるだろう。

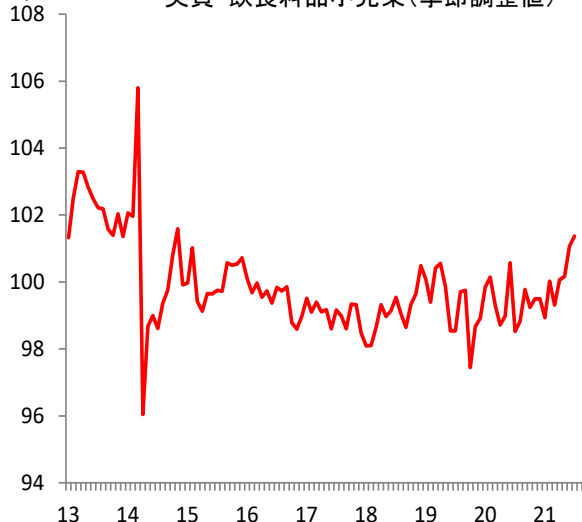
(15年=100) 小売業販売額(季節調整値)



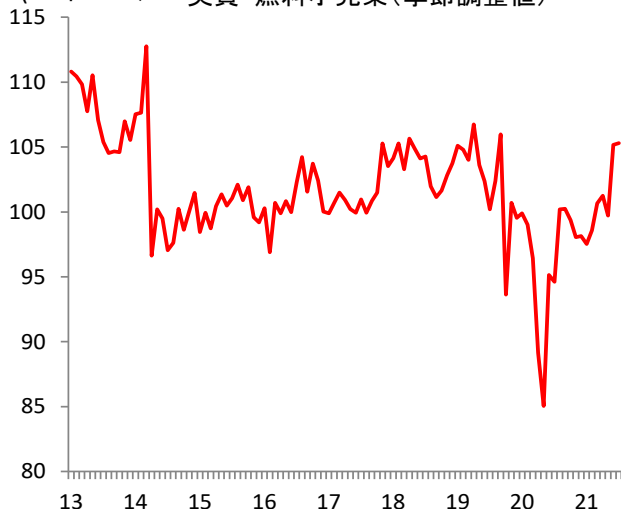
小売業販売額前年比(寄与度)の推移



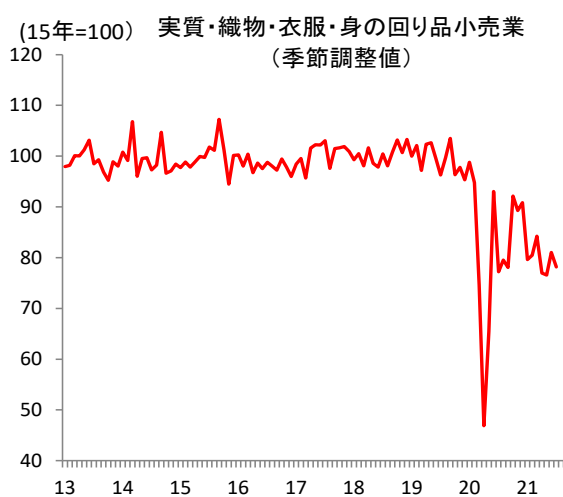
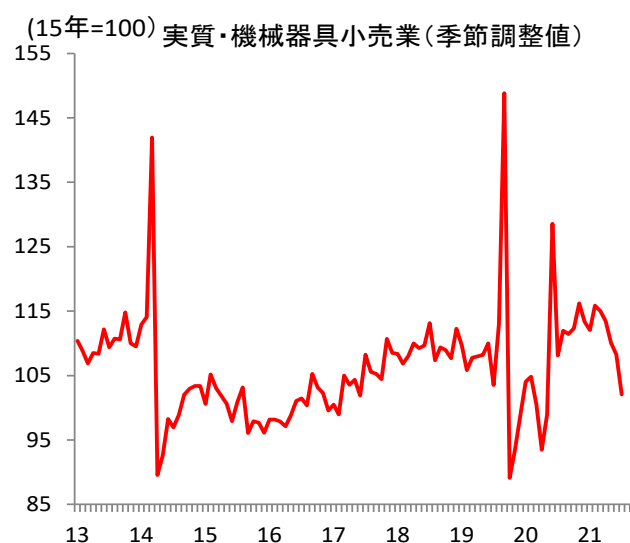
(15年=100) 実質・飲食料品小売業(季節調整値)



(15年=100) 実質・燃料小売業(季節調整値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。